



2010年04月18日



【先週のメッセージより】 ヨハネ20：19～31

信じる者になりなさい

疑い深いトマスという不名誉な名前はトマスが人類全体を代表しているかの如くである。我々は皆、神に対する不信感を持ってしまっているが神は私たちに御自身を信じて欲しいのである。それを覚えたい。■

【赦しに生きること（2）】

●クリスチャンにとって「赦すこと」はイエス様からの命令です。誰かを赦さないという選択肢はありません。しかし、ここで赦しにおける「知・情・意」の果たす役割をキチンと理解しておかないとサタンに足を救われますのでよく理解しましょう。赦しに於ける私たちの精神機能の順番は、1) 知、2) 意、3) 情、となります。

1) 知：キリストが私たちの罪を赦してくださったので、赦しを求める者に対して7×70回（無限回）赦すべきであること、赦しを求めない敵のような存在でも、赦さなければならないことと、裁きは主に委ねるべきであることを私たちは「知って」います。

2) 意：そこで次に取るべきステップはたとえ今は「情(気持)」がついて来なくても、実際に口に出して赦しを宣言し、赦しを自分の歴史に刻むのです。気持が伴わなくても契約文にハンコを押したりサインをするのと似ています。これは意志の行為です。

3) 情：この部分は「生傷」となってまだ癒えていない部分です。かさぶたができ、完全に痛みが無くなるまで時間がかかります。しかし「情」は「知・意」に従うものです。赦しを宣言している人の傷は治癒に向かっているのです。

●最後に間違った祈りと正しい祈りのしかたです。

1) 間違った祈り方：「天のお父様、〇〇を赦せるようにしてください。」

…この祈りは無意識的かも知れませんが、今、赦す決断はできません、まだ赦すつもりはありません、と宣言しているのと同じなのです。赦しは意志の行為であり、感情は後からついて来るものであることを理解する必要があります。

2) 正しい祈り方：「天のお父様、〇〇を赦します。ですから助けてください。傷がうずく時に、今日の赦しの宣言をもとに〇〇を再び責める誘惑からお守りください。私の傷を癒してください。」…この祈り

ははっきり意識的に赦すことを宣言した上で、感情が癒えるのに時間とプロセスが必要であることを理解しています。

【今週の暗唱聖句】 コロサイ 1 : 23

すでに聞いた福音の望みからはずれることなく、
信仰に踏みとどまらなければなりません。

●「福音の望み」には、1) 罪の赦し、2) 神との和解、3) 神の子供としての特権、4) 聖霊の証印と賜物、5) 成長と訓練の恵み、6) 共におられる約束、7) 地の塩、世の光としてのこの地上での使命、8) 共に歩む仲間、9) 地の相続、10) 永遠のいのち等々、神の恵みが数え切れないほど含まれています。

●しかしなぜこれほどすばらしい望みから「はずれることなく…踏みとどまらなければ」ならないのでしょうか。それは最初の誘惑以来、サタンは神の約束はつまらないもの、神の命令は厳しくて窮屈なもので従う必要はないのだ、と手を替え品を替えて言い続けて来ており、大勢の人々がこのサタンの偽りを信じ、世界はその偽りで満ちているからなのです。

●悪魔たちにとり福音を語り、真理を知らせるクリスチャンは邪魔者以外の何者でもありません。クリスチャンから救いを奪うことはできませんが、次に有効なこと、つまりクリスチャンを無力化することにこそ、彼らは全力を注ぐのです。彼らの最も効果的な手段は一見、良いこと、大切なことに見える「この世」のことで忙しくさせ、「神さまのことを後回し」に

させることなのです。

●この誘惑にはまるとどんな症状が起きてくるのでしょうか。いつの間にか、聖書を読まなくても、祈らなくても、礼拝に行かなくても平気になって来ます。クリスチャンと交わらなくても平気、さらに裁かれているように感じ始めるので、クリスチャンとの交わりを煩わしく思い始めます。さらに罪に対して無感覚になって行きます。

●「絶えず祈り」ながら物事を決める代わりに、自分の考えで仕事、家族、子供のために「良い事」をどんどん選んでしまうので、最上をささげるべき神のためには何も残らない状況に追い込まれてしまいます。…祈る人には神からの「ちょうど良いバランス」が与えられるものです。神は私たち以上に私たちの仕事をよく御存知であり、私たち以上に家族や子供のことを愛しておられるからです。

●パウロは涙ながらに同労者の一人について語っています。「デマスは今の世を愛し、私を捨ててテサロニケに行ってしまい」(Ⅱテモテ4:10)と…。教会にとって「過去の人」にならないために、はずれることなく、踏みとどまる決心を今日新たに致しましょう。■

ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、
かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますます
そうしようではありませんか。 ヘブル10:25